

作文教育再考

— 中国の「看图作文」からの示唆

国際交流センター 大上 忠幸

Rethink about the Teaching of Writing

— Suggestion from Chinese “Writing with Pictures”

Tadayuki OGAMI

キーワード

看图作文 日本語教育 中国の国語教育 日本の国語教育

はじめに

中国の小中学校の国語（中国では「語文」という）教育では伝統的に「看图作文」という作文教育が行なわれている。絵や写真を見て作文するというものだが、日本ではあまり知られていない。

筆者は中国のある大学の日本語学科2年生の学生73名にアンケート調査を行なったが、小中学校の国語の授業に「看图作文があったか」という質問に対し、小学校低学年で100%、小学校高学年で79%、中学校で71%、看图作文があったとの回答を得た。看图作文は大学入学試験（通称「高考」、日本の大学入試センター試験にあたる）の国語の作文試験においても使われることもあり、中国では大変一般的な作文の方法の一つといえる。

日本の国語教育においては10数年前から、北海道教育大学の鹿内教授を中心に、一部の教育者グループや地域において中国の看图作文を応用した作文教育の取り組みが広がっている。しかし日本の国語教育全体においてこのような看图作文は、まだあまり知られていない。

日本語教育においても同様に看图作文のような作文指導はほとんど知られておらず、あまり用いられていないといえる。一部の教育現場で行われていても、積極的に公開したり研究されたりしていないのが現状である。

本稿では、中国の国語教育で用いられている看图作文がどのようなものであるか概観し、看图作文を応用した取り組みを紹介し、日本語教育での作文教育について再考することを目的とする。

1. 看图作文を用いた作文教育の可能性

作文教育は国語教育においても日本語教育においても学生の言語のレベルを問わず工夫が求められる。とりわけ年少者の作文教育は、学習者に興味、関心を持たせるものでなければ、多くを書けないものになりがちである。しかし現在、日本語教育においては年少者向けの作文教育の方法を提案したものは少ない。

中国の小中学校の国語教育では絵や写真を見て作文する「看图作文」が伝統的に用いられている。これは教科書にも多く取り入れられており、広く実践されていることが分かる。日本の国語教育においては、10数年ほど前から中国の看图作文を応用した作文教育の実践が広がっており、指導案や教材の開発が進められている他、最近では町をあげて看图作文に取り組んでいる（北海道今金町）ところも出てきた。今後、更なる発展、拡大が期待される。

筆者は20年ほど前から看图作文に注目し、教育実践の場で試してきた。実践を通し、看图作文は、年少者に限らず、大学生等の作文にも用いることができるとの考えにいたった。

本稿では、中国の語文教科書・指導書、語文教育研究書の文献調査や中国の小学校の語文教師への聞き取り調査、さらに日本の国語教育での看图作文を用いた教育現場の実践記録や論文、日本語教育の現場で看图作文を応用した取り組みの検証から、看图作文の国語教育や日本語教育における作文教育への活用の可能性を探る。

2. 看图作文および中国における作文教育

2.1 看图作文とは

日本の国語教育研究者である北海道教育大学の鹿内信義教授は、看图作文とは「絵図の内容を読み取らせ、それをもとに作文を書かせる」（2003）中国独特の作文指導法であるとしている。

看图作文の教育実践記録の詳細が記された論文（鹿内2003、大上2007）には、教師が児童生徒に絵や写真から何が分かるか、十分に時間をかけてやりとりしている様子が書かれている。また、教師用指導書においても、教師が絵や写真の情報について児童生徒に問いかけることを重視している。

中国の国語教師が読む国語の模範的授業を提案する書物にも看图作文の具体的な指導例が載せられており、実際の児童とのやりとりも含め、授業の進め方が細かく書かれているが、教師にとっても看图作文は必須の指導項目で、その指導法に強い関心が寄せられていることが読み取れる。

2.2 中国の作文教育—語文教科書の調査より

看图作文を含め、中国で作文はどのように指導されているのか。国語科での作文の取り扱い方を教科書および指導書、教学大綱（日本の指導要領にあたる）、課程標準の文献調査をしたところ、次

のようなことが明らかになった。

『全日制語文課程標準』（日本の「指導要領」より更に具体的な指導目標が書かれたもの）に掲げられた国語科の目標を読むと、小学校は、2学年ごとに目標が掲げられており、1・2年生は「1,000字の漢字の習得」「5万字の読書」「50編の優秀詩文の暗誦」等の記載があるが、作文についての数値的な目標の記載はない。3・4年生は「1,000字の漢字の習得」「40万字の読書」「50編の優秀詩文の暗誦」等の目標の他、作文は「提出回数16回」とある。5・6年生も「500字の漢字の習得」「100万字の読書」「60編の優秀詩文の暗誦」等の目標の他、作文は「提出回数16回」の目標に加え、「40分に400字以上」と速度の記載もある。中学校の3年間では「3,000字の漢字を書けるようにする」「400万字以上の読書」「80編の優秀詩文の暗誦」等の記載がある他、作文は「毎学年14回以上の作文を書く」とある。

教科書を順に見ていくと、作文の多くは各単元ごとに、最後のまとめとして書かせるようになっていっている。1単元（3～4つの読み物；半期で計24）ごとに「まとめ」としての練習欄が設けてあるが、そのほとんどに作文を書くことを要求する項目がある。教科書の本文で学んだ内容に関係するものや、児童生活に身近なものを題材としている。手紙や読後感と呼ばれる読書感想文の類のものも含まれている。

2.3 教科書中の看図作文

人民教育出版社『小学語文教科書』九年義務教育六年制小学教科書（2001年）を調査したところ、教科書中に記載されている作文をさせる練習等の項目は1年生から6年生までの計12冊中107題あり、看図作文は107題中18題あった。特に1年生から3年生までの低学年の単元のまとめに多く用いられていて、107題中の13題が低学年の教科書にあったが、全学年で広く用いられていた。

この中には直接絵や写真がなくても、児童が写真を用意して作文をするものを含んでいる。資料1-1と資料1-2に特徴のあるものを挙げる。



shuō huà xié huà
说话·写话

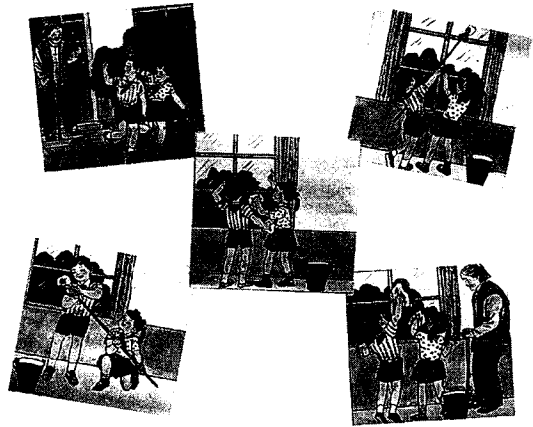
xiān yī fú yī fú de guān chá tú huà xiǎng
先一幅一幅地观察图画，想

xiǎng měi fú tú huà de shì shén me zài bǎ wǔ fú tú
想每幅图画的是什么呢；再把五幅图

de cì xù pái liè hǎo lián qǐ lái shuō shuō tú yì,
的次序排列好，连起来说说图意，

rán hòu xié yí duàn huà。
然后写一段话。

cā bō lí
擦玻璃



【訳】 說話・寫話（＝話を話そう・話を書こう）
まず一つ一つ絵を観察し、それぞれの絵が何の絵か考えましょう。さらに5つの絵の順番を並べ替え、つながったら絵の意味を言いましょ。それからお話を書きましょう。

擦玻璃（ガラスを拭く）

資料1-1：「看図作文」小学校2年 語文教科書

資料1-2:「看图作文」小学校6年 語文教科書



作文

仔细观察图画，看看图上画的是什么地方，有哪些人，他们都在干什么，看了这幅图你想到些什么？把你从图上看到的和想到的写下来，题目自己定。作文前，要先想好文章所要表达的中心，根据中心和图意，确定写些什么内容，列出提纲再动笔。写好以后读一读，看看有没有把想要表达的意思说清楚。如果有不清楚的地方，认真修改一下。

【訳】「作文」写真を細かく観察し、写真に写っているところはどこか見てみましょう。どんな人がいますか。その人たちは何をしていますか。この写真を見て、あなたは何を考えますか。あなたが写真から見つけたことや思ったことを書いてください。題は自分で決めてください。書く前に、まず、文章の中での伝えたいことの焦点をよく考えてください。焦点と写真の意味にもとづいてどんな内容を書くか決めてください。要点を列挙して書いてください。書き終わったら読んで伝えたい意味がはっきり書けているかどうか見てください。もし、はっきりしないところがあれば、頑張っ直してください。

その他、児童に生活の一風景を写真のように切り取らせ、そのイメージをとられるものもあった。以下、特徴のある1つを挙げる。

【例】思考・練習「もし君が建国式典に参加した記者の一人だったら、君はどのシーンが最も忘れられないものになるだろうか。シーンを選んでそれぞれの写真に文字の説明を加えなさい。」(小学校6年語文教科書)

資料1-1の小学校2年生の看图作文は絵の順番を考えさせることにより、時系列を意識させ、絵と絵の前後のつながり等の論理的な組み立てやそれに伴う接続詞等の使用を学ばせるという作文教育上の目的が見て取れる。また資料1-2の小学校6年生の写真を見て作文させるというものは、高学年だけあって、教科書中の指示が極めて具体的かつ要求の高いものになっていることが分かる。細かく見ることを指示し、まず場所、人、人の行動、それらから気づいたこと、考えたことを書くように要求している。さらにタイトルを決めること、作文にまとめる際に、伝えたいポイントを絞り、意味のある内容を書かせること、下書きして見直しをすることまで明記されている。

2.4 国語教師の看图作文観—中国の小学校教員の聞き取りから

教科書には1年生から6年生まで全ての学年で看图作文が掲載されているが、実際の教育現場では、この看图作文で指導されているのか。北京市直属の重点校・北京第一实验小学国語教師・閻京波氏(1990年より教壇に立つ)にインタビューを行なった。閻氏は、看图作文について「長く続く伝統的な作文指導の方法」だが、徐々に絵の内容が変わってきたことを振り返り、大きな変化として、「昔に比べて今の絵は児童の実際の生活に近いものである」とし、「以前のは教師の視点、つ

まり大人の角度から書かれていた。言い換えれば昔のは政治的色彩が濃い、例えば、新中国建設の革命に関わった人が登場しているものが多かったが、今は文学的な色彩、人文的色彩の濃いもの、身近な人が登場しているものが多い」との見解を語った。また作文教育について中国では特に①伝統的に、自ら題を定める「審題」の力を培うことが重視されている、②読解という基礎力があってこそ作文が上達するとの基本的指導見解がある、との2点に重点が置かれているとのことだった。

語文教科書文献調査および中国の小学校国語教師の聞き取り調査から、看図作文が小学校全学年の教科書に掲載され、作文教育に広く用いられていることが明らかになった。また、教科書の指導書や語文教育の研究書の調査から、具体的に教育現場で展開される看図作文の指導方法をうかがい知れた。中国の作文教育は、作文を書くまでの対話（問答）を重視し、特に書く材料を学習者にうまく与えている点が特徴的である。（インタビューは2006年3月と2012年12月に実施）

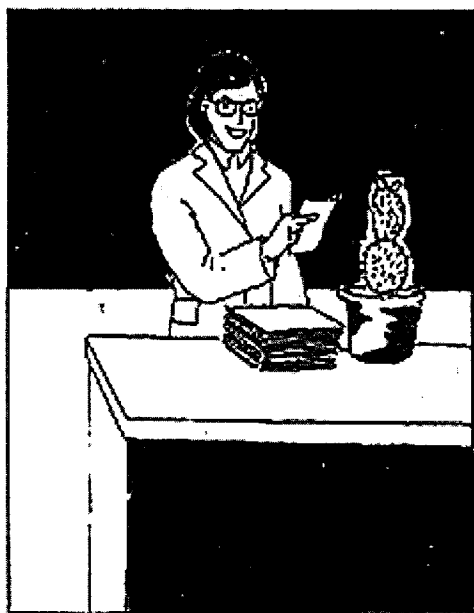
3. 日本の国語教育における看図作文の実践

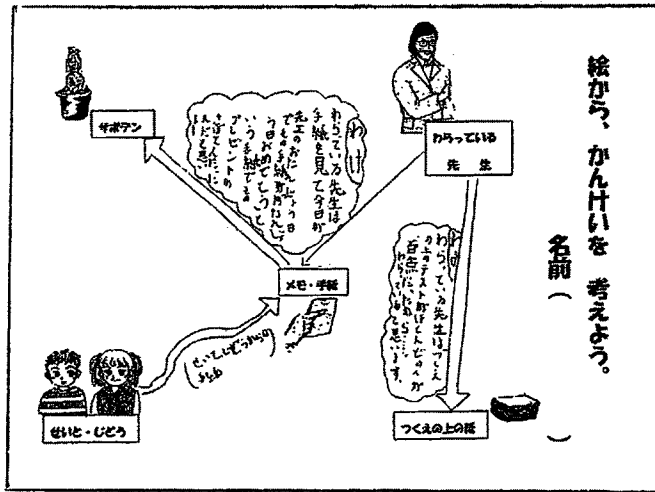
鹿内教授らの看図作文を用いた日本の国語教育現場での作文教育の実践記録等の文献からは、中国の看図作文をさらに発展させた「新しい看図作文」が生まれ、積極的に教育実践および検証の試みをしていることが分かった。学習者の動機づけに重きを置き、作文を書くことに対する抵抗感を取り除くことを特に意識して看図作文の開発を進めている。

特に、ここ10数年ほどで鹿内教授の提唱する中国の看図作文に「〔創造的読み〕の理論と技法」を組み合わせた新しい指導方法（鹿内2003）で看図作文の教育実践が展開されている。資料2-1の中国の語文教科書の絵を借りて日本の国語教育で「新しい看図作文」の取り組みをしている例である。中国では教科書や教師が質問を用意して児童に絵を読み取らせているが、鹿内教授らは、さらに進化させ「絵を詳しく観察して児童が質問づくりをする」から始め、その質問の答えを考えるなかで、「児童が自ら構成を考える」、そして「絵から読み取ったことをワークシートに書く」（資料2-2）という作業を行って、作文を書くという流れの作文教育をしている。

鹿内教授は自身の提案する「看図作文」は「『書くことがない』『どう書いたらいいかわからない』といった問題を解決するために考案さ

資料2-1：日本の国語教育で使用された中国の小学校3年語文教科書「看図作文」





資料 2-2: 看図作文ワークシート

れた、新しい作文指導法である」としている(鹿内 2003)。

中国の看図作文を、いろいろな視点から書くこと(チェックリスト法、実際の視点から空想上の視点まで)、順序よく書くための指導(書く順序を任意に決めうる場合や書く順序が固定されている場合)、興味関心を高める工夫(興味ある絵を選ばせる、ぬり絵してから)に分類し、その教育効果を述べたうえで、自身の提案する創造的読みの理論と技法を組み入れ、書く

ことがないという子どもたちに興味関心を持たせる発見のある絵図を与える「発見のある看図作文」や、複数の連続する絵図を①問答法によって、その答えがそのまま作文になるボトムアップ方式のやり方、②ある概念や仮説を与えて(例えば絵の中にない情報のタイトルを与えてタイトルに関連する情報を作りださなければならない状況にして)書かせるトップダウン方式のやり方「ボトムアップとトップダウンの看図作文」の実践とその方法を紹介し、日本の小学生から大学生までを対象に教育の現場で実証し、その効果を検証している。

看図作文の理論を用いた日本の国語教育の現場での実践では、児童生徒に書く材料を与えるだけでなく、様々な視点から更に順序よく書けるように中国の看図作文をより発展させた新たな看図作文を作り出し、その実践が広がりを見せてきている。

4. 日本語教育での作文—教育経験・教育実践から

4.1 中国出身児童の作文—看図作文の影響

筆者の教育経験で特筆すべき作文を書いた児童がいた。中国帰国者定着促進センターの子どもクラスにおいて、社会科見学の後に書かせた絵日記作文で小学校2年生の女子児童(日本語学習2カ月)が書いた絵日記作文である。(資料3-1)

これは、絵を描くスペースを4分割にして体験順に4コマの絵を描き、それぞれの絵を説明するように作文を書いたものだった。中国の小学校で指導されたと思われる看図作文の影響を受けたものだと考えられる。

中国帰国者定着促進センターの子どもクラスでは、看図作文を意識した「私マップ」の作文の実

践を行なった(資料3-2)。

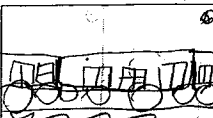

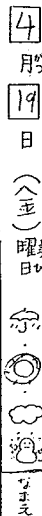

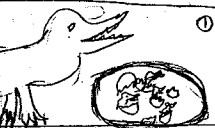
4カ月の日本語学習期間(当時)の最後に行なう学習発表会で自己紹介のスピーチをする際に、児童が自分でスピーチ原稿を作るにはまだ能力的に厳しいが、まず絵に様々付け足し(絵でも文字でも構わない)、それを文章化し、最後にスピーチの原稿になるよう並び替えるというものである。

中国で看图作文に慣れ親しんできた児童たちは自分たちの情報を付け足した絵から作文をつくることについて、ほとんど抵抗はなくスムーズだった。出来上がった作文もある程度の型は教師が作って当てはめさせてはいるが、児童が自分自身の自己紹介で言いたい内容が入り、児童にとって意味のある作文ができあがり、発表においても楽しくいきいきと読んでいた。

このように看图作文の理論を用いた年少者の日本語教育現場での実践では、具体的に題材が与えられている点や、書くことが明確で学習者の興味関心が高まり動機づけがしやすく、順番や因果関係等の表現をうまく使えるようになる点等が評価できる結果となった。

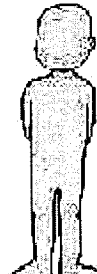
資料3-1:

小学校2年(来日2カ月女子)「絵日記」


			4月19日(金)曜日 宗 
			
キのツギまうりゆうかんはまました。 キよりゆうの大まことあかちゃん がかわいかったです。 あひるにおべんとうをたべまし た。おいしかったです。 それからまたいぬにのりました。 水を水でけすゲームもしまし た。電車うちがえりま した。 また、いきたりです。			

資料3-2: 小学校6年(来日3カ月男子)「私マップ」

わたし 私 / 僕



わたし 私 / 僕



わたしは、[redacted]です。
 (ま)1才です。
 6月13日はあつたのまつり
 に行きました。
 僕は将来せんせいになりたいです。
 僕の一番好きなお料理はカレーです。
 僕はトンボが好きです。
 僕はサッカーが好きです。
 僕は1人です。
 一番好きなおもちゃはパソコンです。
 僕の家族は4人です。
 おはあさんとおとうさんとあかあさん
 ぼくです。
 僕は中国語が話せます。
 どうぞよろしくおねがいします。
 友だちがみんないます。

4.2 看图作文の実践—中国の大学（日本語学科3年生）での例

筆者は、中国の大学（日本語学科）3年生の作文の授業で、北京オリンピックを翌年に控えた国慶節の時期に天安門広場で撮った写真を見せ、様々やりとりした後に「北京オリンピック」という題で作文を書かせた。多くの学生が作文を書くのに要する時間は普段より早かった。慣れ親しんだ作文法で書きやすかったとの感想が寄せられた反面、自分自身が体験していない「創作」のような作文や美辞麗句を多く用いた作文を書く学生も多かった。実際是北京に行っていないのに次のような作文を書く学生がいて多くいて大変驚かされた。

北京オリンピック

夏休みの頃、北京に行った。建てたばかりのオリンピック村を見学した。

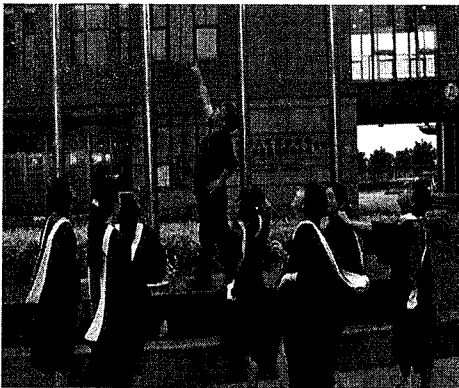
その美しい景色と壮大な建物は私の心に深く刻んでいる。

中国は速いスピードで発展していると感じられる。（後略）

このように、実際には体験していないことを書く、すなわち創作で作文を書く手法は、中国の作文教育においては小学生のときから慣れ親しんだやり方であると理解した。日本の学校教育の作文、すなわち、見たまま感じたままを素直に書く作文が好まれるが、中国の作文は、これとは全く別のものであることを日本人の日本語教師は理解しなければならないことを痛感した。

4.3 発表と絡めた写真を用いた作文（中国の大学日本語学科2年）

次に、中国の大学で写真を用いた2つの作文教育の実践を紹介する。一つは学生が自分で用意した写真について説明するもの（原稿を用意する）で、もう一つは教師の用意した写真について、①見たままを描写（約10～20字）、②先生にインタビューした後、説明（約20～30字）、③文学的表現（比喩、副詞、慣用句）を用いて読み手を意識して物語を書く（約150～200字）という作文（②、③はグループで）を書くというものである。



資料4-1：写真から作文

教師の用意した写真について作文を書くことについては、日本語学習歴が短いのが原因しているのか、①の描写については、同じような表現を用いる学生が多く見られた。③の文学的表現についても少し目標設定が高すぎたのか、苦戦した学生が多かった。②のインタビュー後の説明については、うまくインタビューできたグループについては豊富な表現で作文ができていた。資料4-1を見て書いた作文（③の部分）を紹介する。

むかしむかし、ある魔法学校で学生は魔法を



↑資料4-2：写真とスピーチ

勉強しました。その時、風が吹きました。まるで皿のような飛行船は空を飛び回りました。先生は飛行船を指さしました。そして学生たちは見上げました。(後略)

次に、学生が自分で用意した写真を説明するというものは、友人を紹介するといった内容のものから、電車内のマナーといった道徳的なものまで幅広く、その写真の選び方(=審題)に特徴が出た。これも看图作文等の中国の特有の作文教育を受けてきた

背景があるものであると分析できる。資料4-2を皆に見せてスピーチした原稿を紹介する。

写真に映っているのは青海省のタルシでうつぶせをやっている敬虔な信者です。うつぶせというのはチベット仏教が盛んになっている地域で行われていて、信者たちにとってもっとも心がもっている神聖な行事であります。(後略)

看图作文について、アンケートを実施した(2年生73人)ところ、次のような結果が得られた。

(1)「小学校・中学校の語文の授業で年に何回、看图作文を書きましたか」との問いについては結果だった。

小学校低学年では「年に1~5回」が47%、「年に6~10回」が40%、「年に11回以上」が13%だった。「年に1回もなかった」という回答は無かった。すなわち低学年では100%行っていることが分かった。

小学校高学年では「1年に1回もなかった」が21%、「年に1~5回」が60%、「年に6~10回」が14%、「年に11回以上」が5%だった。

中学校では「1年に1回もなかった」が29%、「年に1~5回」が66%、「年に6~10回」が2%、「年に11回以上」が3%だった。

(2)「外国語学習で絵(写真)を見て作文することは良いと思いますか」との問いでは、「良い」が52%、「どちらかといえば良い」が41%、「どちらかといえば悪い」が5%、「悪い」が1%だった。

学年が上がるにつれ、看图作文の実施は減るが、それでもなお比較的实施されていること、および外国語学習で看图作文をすることについて9割以上が肯定的な考えを持っていることが明らかになった。

4.5 日本の大学での看图作文の実践

筆者は、本学に学ぶ留学生の日本語の授業において絵を見て作文する看图作文の指導を行なった。内容は日本最古の「漫画」とされる鳥獣戯画の一部分(資料5-1)を見て、皆で意見交換をし

た後、各自、イメージを膨らませ、ストーリーを作り、作文にするというものだった。学生の内訳は来日半年から1年の交換留学生および来日1年から2年の学部留学生で、出身国・地域(人数)はそれぞれ中国(7人)、台湾(2人)、韓国(3人)、カナダ(1人)、フィンランド(2人)、オーストラリア(2人)、メキシコ(1人)、アイスランド(1人)、タイ(1人)の合計20人だった。



看図作文の授業を受けてきた中国・台湾の学生は、絵を見て何をするのか察し、勘が働いたようで、ほとんどが、すぐにペンを進めていた。他の国・地域から学生の多くも普段とは違う作文に興味を示し、隣近所の座席の学生と意見を交換しつつ、楽しみながら書いていた。以下、学生の作文の一部を挙げる(資料5-2、資料5-3)。

作文後にアンケートを実施し(中国語圏9人、中国語圏以外11人)、結果は以下の通りだった。

小中学校、高校で看図作文(絵を見て作文)があったかどうかという問いには、中国語圏の学生は全員あった、中国語圏以外の学生11人中3人(フィンランド1、オーストラリア1、韓国1)は経験がなかった、8人(フィンランド1、オーストラリア1、韓国2、タイ1、アイスランド1、カナダ1、メキシコ1)はあったと回答した。出身が同じでも看図作文の経験の有無が分かれる国もあった。

今までに日本語の授業で書いた作文に比べてどうだったかという問いには、中国語圏は「少し書きやすかった」が4人、「少し書きにくかった」が5人。中国語圏以外は「書きやすかった」が2人、「少し書きやすかった」が2人、「特に変わらない」が3人、「少し書きにくかった」が3人、「書きにくかった」が1人だった。

「書きやすかった」理由は、「楽しかった」(オーストラリア)、「ちょっとなつかしので楽しくなりました」(原文のまま、アイスランド)としていた。

「少し書きやすかった」理由は、「多分今度絵や写真を見て作文は力を発揮しやすい」(中国、原文のまま=以下同様)、「テーマが理解しやすい」(中国)、「理解が簡単になりました」(中国)、「絵を見ながら書ける言葉も多くなる。書きやすくなります」(中国)、「ちょっと童話の感じで簡単な言葉でした」(韓国)としていた。

「特に変わらない」理由は、「ストーリーを自分が得意な方面へ引導すれば書ける」(中国)、「もう20年ぐらいこんな作文を書かなくなった。小学生時代の絵と比べて内容ももっともっと多い。おもしろかった」(中国)、「私はいつも考えが来

資料5-1：看図作文「鳥獣戯画」の一部

大約三百年の前に人間はまをいなかた。その時、世界は
 迷子とがえるにまをいなかた。迷子とがえるは生きるために、
 毎日武器を作って、食ものを採って大変働いた。最後に
 最強帝国という国を建てた。でもこの国はいつも迷子と
 がえる以外の民族に厳しくして、みんなはもう耐えられ
 なくなた。だからある日、迷子とがえる民族は最強帝国に反抗
 した。でも、最強帝国の武力は強すぎた。迷子とがえる民族は
 すぐに手押えられた。その後、最強帝国の奴隷になって、
 地位も前のよりかなり下がた。しかし、100年の後、ドラゴン
 はこの最強帝国に襲った。みんなはドラゴンに對抗のため
 に弓と矢を發明して作戦に依って、ドラゴンに勝た。大
 勝利！しかも、弓と矢を發明する人は迷子とがえる民族の人だ
 けから、迷子とがえる民族は自由をとりもた。みんなは
 平和な生活を。

る前に時間がかかる」(カナダ)、「だいたい似てる
 けど日本語で書きなければならないので、考えた
 通りで書きにくかった」(フィンランド)、「大学
 (韓国)の授業で口演童話をやっていたから」(韓
 国)としていた。

「少し書きにくかった」理由は「子供のとき考え
 が多かった。成人になった思惟が大体固定しまし
 た」(中国)、「絵が読みにくい。想像力がない」
 (中国)、「幼いころより想像力がなくなってしま
 ったからです」(韓国)としていた。

看图作文は、中国語圏の学生にとって慣れ親し
 んだ作文の活動であるため、動機づけに一定の効
 果があるだけでなく、書く工程も掴んでおり、ス
 ムーズに書ける。半数以上の学生がたくましい想
 像力を働かせて資料5-2のような創作文を書い
 た。ただ、アンケートでは「少し書きやすかった」
 より「少し書きにくかった」とする学生のほうが
 多い結果になった。これは上記の理由にある通
 り、子どものときより今は想像力がなくなってい
 る、大人になって考えが固定化してしまっている
 と自己分析しているからで、過去と比較しての答
 えであると考察される。

↑資料5-2：学生の作文（台湾）

昔々親を狐と聞かされた。狐は
 初め会って彼らは友達になりました。しかし、
 狐は問題を持って狐の手伝うにしたい。狐は
 最近よく蛇は友達に家方を
 がたは狐に手伝えると思ひました。
 狐はあなたを助けるために、蛇はさみ
 がなくて、だから弓矢に使用方を教えます。
 このアイデアから狐はやくやくになって全部友達
 を聞かされた。ついに、ヒキガエルさんに
 着きました。狐と蛇のよさを聞いてくわかし
 ないでした。ある日、弓矢に使用方とヒキガエル
 のために狐に教えました。狐先生とみんな
 はとてもうれしかった。狐は蛇さん食べ物
 食べました。ついに、蛇とヒキガエルはよく
 蛇を聞かされた。蛇はとてもうれしかった。ついに
 蛇とヒキガエルに、蛇はさみ、さ
 ました。蛇さん、さきとヒキガエルと狐と
 家にかえて家畜ととてもうれしかった。あ
 ましい

今回、最も驚いたのは普段、作文を苦手にして
 いた学生（オーストラリア）が猛然と書いたこと
 だった（資料5-3）。普段の授業では書くことに対
 し大変嫌悪感を露わにしており、意見文等の作文
 では書き出すまでに相当の時間を要していたが、
 看图作文は「書きやすかった」、理由は「楽しか
 ったから」としていた。日本語の表現は完全なもの
 ではないものの意味の通じるものを書き上げるこ
 とができた。

その他『絵を見て作文』する活動は作文の能力
 を上げるのに良いと思いますか」との問いに対
 し、中国語圏は「よいと思う」6人、「まあまあ良
 いと思う」2人、「普通」1人で、中国語圏以外は

↑資料5-3：学生の作文（オーストラリア）

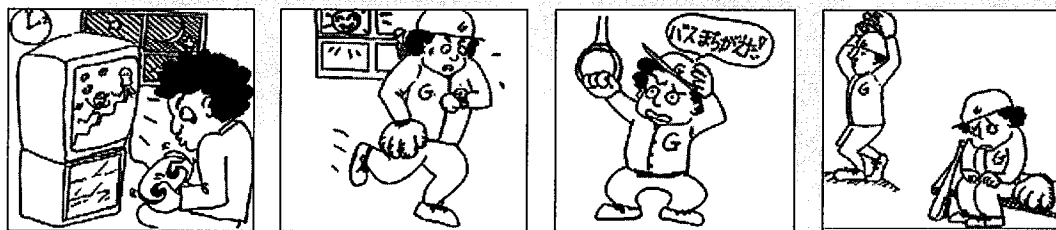
「よいと思う」7人、「まあまあ良いと思う」1人、「普通」3人で「あまり良いと思わない」と「良いと思わない」は中国語圏も中国語圏以外も0人だった。

このように中国語圏の学生も中国語圏以外の学生も多くが看图作文の作文の活動を肯定的にとらえており、様々な活動の可能性を示唆していることが分かった。

5. 作文の書き方の違い—受けてきた教育による思考表現のスタイルから

同じ絵を見ても、受けてきた教育が異なれば、作文に違いが出てくることを渡辺雅子氏(2006)が検証している。渡辺(2006)は日米仏の子どもたちが同じ4コマの漫画(資料6)を見てどう作文するかの実験を行ない、各国の学生の作文の特徴をまとめている。

けんた君は小学生です。テレビゲームと野球をするのが大好きです。けんた君は野球チームのエースピッチャーで、毎週土よう日の朝早く野球のしあいをします。下の絵はけんた君の一日のでき事をえがいています。けんた君にとってその日がどんな日だったか、書いて下さい。(書く前にまず四つの絵をすべて見てから書き始めて下さい。)



↑資料6：日米仏の学生による漫画から作文の実験（この絵で2つの作文を書く）

2つの課題を行なっているが、最初に自由課題[1]として絵を全て見た上で「少年の1日がどんな一日だったか」を自由に書かせ、次に同じ絵を使った条件課題[2]（書き出しを「少年はしょんぼりしています」という文にする条件）として、この少年の1日がどんな1日だったかを書かせている。以下、各国の学生の作文例を挙げる。

【日本の学生の作文例】

[1]の例：けんたはテレビゲームをしていて、いそいで野球の試合にでかけ、バスにのったところ、まちがえて、しあいにおくれて、ピッチャーができませんでした。

[2]の例：けんた君はしょんぼりしています。なぜなら……（以下、上記の①とほぼ同じ）

【アメリカの学生の作文例】

[1]の例：この日はジョンにとって最悪の一日でした。……

[2]少年はしょんぼりしています。なぜなら野球の試合で投げられなかったから。(途中のストーリーを省略して終了)

【フランスの学生の作文例】

[2]の例：少年はしょんぼりしています。なぜなら野球の試合で投げられなかったから。野球

の試合が終わり、がっかりしていてバスを間違えてしまいました(コマを逆にたどって作文)慌てて帰ったが夕食の時間に遅れてしまい、落ち込んだ気持ちを解消するためにテレビゲームをするでしょう。

渡辺は、日本は、時系列(出来事が起こった順番に述べる)で書く傾向が強く、創作文は普段あまり許されていないため、だいたい同じような内容の作文になるとし、アメリカは時系列で書く子もいれば、因果律(主張→論証→結論)で書く子も多く、創作文も多く(主人公に寄り添う共感型)、フランスは時系列と因果律に加えそれを統合する俯瞰型の作文を書くとき分析している。こういった作文の違いが出る主な原因について渡辺は、思考表現スタイルが異なるからだとして主張し、日本は「全ての部分を述べる」、アメリカは「不要な部分を切り捨て局所的な因果関係に注目する」、フランスは「全体像を描こうとする努力」をするとその特徴を分析している。日本語教育での作文においては、このような受けてきた教育によって思考スタイルが異なり作文に違いが生じることも念頭に置いて指導しなければならない。

6. 今後の課題とまとめ

本稿は中国の看图作文を紹介し、日本語教育の作文教育について再考することを目的にしたが、その原点は中国出身児童の書いた絵日記作文(資料3-1)であった。中国の子どもが作文を書くとき、絵を順番に並べて書くという手法があることに衝撃を受けた。絵をきっかけに作文するというものが国語、日本語(年少者から大学生まで)の作文に有効であることに気づかされた。

国語教育において看图作文を応用した実践(鹿内2003)では、日本で生まれ育った子どもたちに合わせた取り組み「[創造的読み]の理論と技法」を組み合わせた新しい看图作文を提唱し、教育の現場と連携し展開している。とりわけ興味関心を持たせる発見のある絵図を与える「発見のある看图作文」やボトムアップ方式、トップダウン方式の看图作文の実践は興味深く、これまでにない教育効果を上げているといえる。

筆者は日本語教育の作文指導において看图作文の実践を行なっているが、中国・台湾出身の学生にこの手法を用いれば、中国・台湾出身の学生は教師が何をさせようとしているのか容易に理解でき、慣れ親しんだものとして他の作文に比べて筆が進む。ただし学習者の年齢が上がるにつれ、中国での経験上から、どういうものが評価されるか知っているために、身構えたものを書いてしまう学生もいることが分かった。例えば、看图作文で評価されるものは美辞麗句で書いているかどうかというものの他、道徳性・思想性といった観点からも評価されるからである。韓国出身の学生も看图作文のような形で作文を書いた経験があり、同様の傾向が見られた。

海外の高校、大学等で教鞭をとる日本人の日本語教師は、多くが作文の授業を担当している。しかし、「作文」というコマに対し、自分自身が日本の学校教育で受けてきた日本式の作文教育をイメージし、海外の大学の授業等においてもそのままに近い形で自分自身受けてきた作文教育を実践しがちである。例えば、中国で教鞭を執る日本人教師が中国の学生が慣れ親しんできた作文の手法、

例えば創作文を書くという作文を取り入れることは日本人教師にとっては、「作文」の授業という場において、まず思いつかない発想であろう。日本語をたくさん書く、作文を嫌がらずに楽しく書くということが第一義であるならば、教師が中国の看図作文等様々な作文について知り、活用しているものがあれば活用することが学習者の日本語能力向上につながると思う。

今回、中国の看図作文から作文教育を再考したが、中国以外の国の教育については調査できていない。学習者が受けてきた教育をより知ることから、よりよい教育が実施できると考えるが、他の国の教育方法の調査およびその活用については今後の課題にしたい。

【参考文献】

- 池上摩希子、大上忠幸、小川珠子(2003)「中高学年における『書くこと』の指導・再考」、『中国帰国者定着促進センター紀要10号』(31-58頁)中国残留孤児援護基金
- 伊藤公紀、石田ゆき、渡辺聡、田籠千夏、伊藤裕康、鹿内信善(2011)「看図作文授業の新たな展開(II) —作文能力が高い学習者に対する継続的支援の試み—」『札幌大学総合論叢31』(147-177頁)札幌大学附属総合研究所
- 今金町“読書と作文のまち”ワーキングチーム(2013)『看図作文実践の手引き』
http://www.town.imakane.lg.jp/gyousei/uploads/pdf/uid000002_20140611114841196cf017.pdf#search=%27%E7%9C%8B%E5%9B%B3%E4%BD%9C%E6%96%87+%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D%27
- 大上忠幸(2004)「中国帰国および外国出身児童への作文および書くことの教育の一考察」『埼玉大学国語教育論叢7』(56-68頁)埼玉大学国語教育学会
- 大上忠幸(2005)「中国の作文教育を受けたJSL児童生徒への“書くこと”の指導」『2005年度日本語教育学会秋季大会予稿集』(170-173頁)日本語教育学会
- 大上忠幸(2007)「JSL児童生徒の日本語教育における『書くこと』の指導—中国語を母語とする児童生徒を中心に」東京学芸大学博士論文
- 大上忠幸(2008)「出身国で受けてきた教育を活かすJSL児童生徒の『書くこと』の指導」『日本語教育学会世界大会2008予稿集1』(291-294頁)大韓日語日文学会。
- 大上忠幸(2014)「中国の『看図作文』から考える作文教育」『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』(109-114頁)日本語教育学会。
- 斎藤ひろみ、小川珠子、石井恵理子、池上摩希子、川上郁雄(2005)「年少者日本語教育の4領域から「ことばの力」を捉える」—「書くこと」を例に—『2005年度日本語教育学会春季大会予稿集』日本語教育学会
- 鹿内信義(2003)『やる気をひきだす看図作文の授業』春風社。
- 西村和子(2011)『新・おはなし名画シリーズ 対訳 鳥獣戯画』博雅堂出版
- 渡辺雅子(2004)『納得の構造—日米初等教育に見る思考表現のスタイル』東洋館出版社。
- 渡辺雅子(2006)「日米仏の思考表現スタイルを比較する—3か国の言語教育を読み解く」ベネッセ

総合教育研究所ホームページ

http://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/backnumber/2006_06/fea_watanabe_01.html

北京教育科学研究院（1997）『语文第一册（上）・（下）・第2册』北京出版社

北京教育科学研究院（1998）『语文第十一册』北京出版社

北京教育局教学研究部編（1996）『语文教学参考书第一册』北京出版社

北京教育局教学研究部編（1998）『语文教学参考书第十一册』北京出版社

课程教材研究所（2004）『语文一年级老师教学用书』人民教育出版社

秦训刚主编（2003）『语文课程标准老师读本』华中师范大学出版社

人民教育出版社小学语文室編（2001）『语文第一册』～『语文第十二册』人民教育出版社

人民教育出版社综合编辑室（2005）『素质教育新学案 语文三年级下册』人民教育出版社

（謝辞） 本研究の一部は中国・天津商業大学の興津正信先生（2014年当時）の助言・協力のもと調査・研究を進めることができた。また、2014年度日本語教育学会春季大会および2015年、2016年度の汉日对比语言学研讨会（中日対照言語学シンポジウム）での発表の際、ご意見ご助言いただいたものをもとに執筆することができた。ご助言ご協力いただいた関係各位に心より感謝申し上げたい。

(資料 8-1) 日本の大学での実施アンケート (1/2)

「^え絵・^{しゃしん}写真を見て書く作文」アンケート 氏名 ()

1. あなたは出身国・地域の小学校・中学校・高校で、授業で「絵や写真を見て作文する」というものがありましたか。

a. はい / b. いいえ

※ 1-①. a. と答えた人だけお答えください。どんな割合で (1年に何回) やっていましたか。

小学校 1~3 年: a. 1年に1~3回 b. 1年に4~6回 c. 1年に7回以上 d. 無し

小学校 4~6 年: a. 1年に1~3回 b. 1年に4~6回 c. 1年に7回以上 d. 無し

中学校: a. 1年に1~3回 b. 1年に4~6回 c. 1年に7回以上 d. 無し

高校: a. 1年に1~3回 b. 1年に4~6回 c. 1年に7回以上 d. 無し

2. 今回の授業で書いた絵を見て書く作文について以下、感想をお答えください。

2-①. 今まで書いた作文に比べて (= compare) どう感じましたか。

- a. 書きやすかった b. 少し書きやすかった c. 特に変わらない
d. 少し書きにくかった e. 書きにくかった

2-②. それはどうしてですか。

()

2-③. 今回の作文で、日本語について文章 (sentence) の表現 (expression) や言葉 (words) を選んだり (choose)、工夫したり (devise) しましたか。

- a. そうした b. 少しそうした c. いつもと同じだった
d. あまりしなかった e. しなかった f. その他 ()

3. 今回、作文を書いて、自分が得意だと思ふ日本語の表現 (expression) の発見 (discovery) がありましたか。

ア. はい / イ. いいえ

※ 3-①. アと答えた人のみお答えください。それは何ですか? 以下から選んでください。

- a. おもしろい日本語が書けた b. 想像力 (imagination) 豊かな (fertile) 日本語が書けた
e. 細かい (detailed) 表現 (expression) が書けた f. 比喩 (simile) の表現 (expression) が書けた
g. その他 []

(資料8-2) 日本の大学で実施アンケート(2/2)

4. 今回の作文で「母語 (mother [native] tongue) だったらもっと書けた」と思いましたか。

ア. はい / イ. いいえ

※ 4-① アと答えた人のみお答えください。それは何ですか? 以下から選んでください。

- a. おもしろいものが書ける b. 想像力 (imagination) 豊かな (fertile) ものが書ける
e. 比喩 (simile) の表現 (expression) が書ける f. 細かい (detailed) 表現が書ける
g. その他 []

5. 今回のような絵を見て作文をする活動 (activity) は作文の能力 (ability) を上げるのに良いと思いますか。

- a. 良いと思う b. まあまあ良いと思う c. 普通
d. あまり良いと思わない e. 良いと思わない
f. その他 []

6. 今回、他の人が書いた作文を読んで何か発見 (discovery) (= マネしたい、自分には無い など) がありましたか。

ア. はい / イ. いいえ

※ 6-① アと答えた人のみお答えください。その理由は何か? 以下から選んでください。

- a. おもしろい b. マネしたい c. 自分には書けない d. 想像力 (imagination) がすごい
e. よく細かい (detail) とろまで見ている f. よく全体 (all over) を見ている
g. その他 []

7. あなたの日本語学習についてお答えください。

7-① いつから日本語を勉強していますか。 ⇒ 20 ____ 年 ____ 月 から

7-② 大学で日本語を専門にしていますか。 ⇒ a. はい / b. いいえ

7-③ 日本の留学はいつからいつまでですか。

⇒ 20 ____ 年 ____ 月から ⇒ 20 ____ 年 ____ 月まで

アンケートのご協力ありがとうございました。

(2016年9月28日受理)